

校報 あずまね

文責：紫波町立紫波第三中学校 校長 角谷 隆章

2025年9月2日（火）

～伝え合い 響き合い 高め合う～

紫波町立紫波第三中学校 学校だより No.6

【リサイクル活動】



紫波三中学生徒会では、「リサイクル活動」・「地域活動」・「美化活動」の一環として、今年度も8月30日（土）に『リサイクル資源回収活動』を実施しました。各地域の方々におかれましては、残暑厳しい折、たくさんのご協力を賜り、ありがとうございました。回収で得た収益金は主に生徒会活動の補助金とし、一部を災害復興支援金として活用させていただきます。

【全日本合唱コンクール岩手県大会】



8月31日（日）、トーサイクラシックホール岩手で行われた標記大会に、本校特設合唱団が出演し、堂々とした美しい歌声を披露してきました。結果は銀賞でしたが、これまでで一番いい発表ができたようで、終わった後の表情は清々しく、満足感があふれだしていました。2学期は文化祭をはじめ、まだ発表の機会があります。さらに磨きがかかった合唱を皆で期待しています。

【「読書」と「スマホ」 ～昨日の全校朝会の校長の話です～】

今日から9月に入りました。まだまだ残暑が続くようですが、今月は地区新人大会、中間テスト、地区駅伝大会、生徒会役員選挙等が行われます。充実した活動にするため、体調管理をしっかりと行ってほしいと思います。1, 2年生については、新人大会の学校部活動延長を保護者会練習に移行しています。活動を支えてくれる方に感謝しながら、あと10日、練習を積み重ねてください。

さて、今日は「読書」と「スマホ」の話をします。ちょっと前に、あるテレビ番組で「本離れ」の話題を扱い、専門家や著名人が議論をしていました。このことに関して、私が気になったことを二つ話します。

一つは、書店の数が大きく減少していること。調べたら、2024年度の書店の数は1万店強で、2003年度ピーク時の約半数になるそうです。また、「書店ゼロ」の市区町村も増えており、2024年時点で全国の4分の1以上の自治体から本屋さんが消えているそうです。

原因はいろいろ挙げられます。デジタル化の進展、雑誌の売り上げ激減と休刊・廃刊、流通の問題、人口減少などなどです。時代の流れと言ってもいいでしょう。ともあれ、書店がないと、新しい本に直接触れる機会が少なくなりますよね。「本との出会い」が減るということです。私は用もないのにフラッと本屋さんに入ることがあります。いろいろなタイトルが目に入ってきます。ポップも目にします。まったく興味をもっていない分野や知らない著者の本を思わず買うことがあります。読んでみると、面白くてあっという間に読んでしまったり、逆に途中で読むのが億劫になったりする本があります。でも、それもこれも、手にとって読んでみるからこそできる（わかる）ことです。

もう一つ。議論の中でスマホの使い方について出てきました。‘なるほど’と思ったのは、「スマホは自分が好きなことだけをみたり、調べたりすることができる。本はまったく知らなかったことや、自分の考えとは真逆のことに触れ、想像力や、ものごとを見る視点が広がる」という話です。たしかに、スマホで好きなことだけ見続ければ、それだけが自分の価値観になっていく可能性が出てきますよね。視野はなかなか広がらない。でも本には、視野や想像力を広げてくれる力がある。読書には、私たちが生きていく上で必要なことや大切なことを、より多くの視点から与えてくれる力があると私は考えますが、みなさんはどう考えますか？

ICTの時代です。もちろん、「スマホ」を使わないわけにはいきません。もう逆戻りすることはできません。でも、その使い方については考えてみる必要があると思います。私は、スマホで好きなものだけを見続けると、豊かな生活を送ることにはつながらないと思います。逆に「読書」はいろいろな力を与えてくれる。「本離れ」が叫ばれている昨今ですが、【自分はどうなのか？】をぜひ振り返ってみてください。スマホとは上手に付き合い、図書館や図書室、本屋さんで、気になった本を手に取り、読んでみること。豊かな生活を送るためには、両方のバランスが求められると思っています。